

みずほマーケット・トピック(2020 年 4 月 9 日)

## 英国の EU 離脱はどこへ～移行期間は延長不可避の情勢～

ジョンソン英首相を筆頭に英政権では複数の閣僚が新型コロナウイルス感染ないし感染疑いの状況にあり、国難の最中、重要な意思決定への影響が懸念される。重要な意思決定という意味では英国は今年、元々大きな課題を抱えていた。それは EU との間で行われる「将来の関係」交渉の行方だ。現状の英国は「名目的には EU ではないが、実質的には EU」という状況にある。移行期間の延長可否について決断を下す期限が今年 6 月末だが、未だ英国は延長要請はしないとの立場である。しかし、本稿執筆時点で交渉期間は 8 か月を切っている。この時間で FTA を合意・発効に持ち込むのは無理筋である。直近の協議もコロナを理由に中止された。ビデオ会議などの代替手段をもってしても予定通りに事が進むとは考え難い。今は政治資源をコロナ対策に集中すべき時であり、英国の世論もそちらに傾斜しつつある。「Brino(Brexit in name only: 名ばかり離脱)」の状況は強硬離脱派にとって屈辱だが、EU 予算拠出などを巡って欧州委員会が手心を加えるなどの歩み寄りもあれば、近いうちに移行期間の延期が決断されるだろう。

### ～国難の中で不安視されるリーダー不在～

ジョンソン英首相の新型コロナウイルス感染が伝えられてから 1 週間が経過しようとしている。当初はビデオ会議を通じた執政が伝えられ、様態は安定しているように見受けられた。しかし、4 月 6 日、症状悪化と集中治療室(ICU)入りが伝えられて以降、同氏の容態に大きな注目が集まっている。首相官邸の発表によれば、人工呼吸器は使わず、肺炎の症状もないとされており、昨日も首相官邸の報道官から、容体について「良好な経過が続いている」とのコメントが公表されている。とはいえ、首相不在の状況が続けるわけにはいかず、ラーブ外務大臣が首相代行に就いている。代行はあくまで代行に過ぎず、重要な意思決定は閣内の意見を集約した上でくだす必要がある模様だ。この辺りが国難状況にある英国政治の挙動を遅滞させるようなことがないか不安視される。

ラーブ氏は強硬な EU 離脱派であり、2 代目の EU 離脱担当相であった(初代はデーヴィッド・デービス氏)。しかし、2018 年 7 月に就任して、メイ元首相の妥協色の強い合意案に反意を示し、同年 11 月、わずか在任 4 か月で電撃辞任したことが思い返される。典型的な強硬離脱派ということで本邦でも知る人は多いだろう。ジョンソン首相がこのまま現場を退くことになった場合、ラーブ氏は次期首相として有力な立場と考えられつつも、閣内・党内で候補をすり合わせ、党首選挙というプロセスを踏むことが予想される。なお、英政権においてはジョンソン氏と同日にハンコック保健相が感染が公表したほか、ゴープ内閣府担当相も 7 日、家族に新型コロナウイルスの症状が出たため、自主隔離しながらの公務という状況にある。繰り返しになるが、国難に直面している時にリーダーシップを発揮できる人物がいないうことで、重要な意思決定への影響が懸念される。

## ～コロナショック以前からあった課題～

重要な意思決定という意味では英国は今年、元々大きな課題を抱えていた。それは EU との間で行われる「将来の関係」交渉の行方である。コロナショックないしジョンソン首相の感染有無にかかわらず、この論点は年央にかけて問題になると言われていたが、一連の混乱もあってその処遇をいよいよ考えるべき状況に差し掛かっていると言える。

現状を整理しておく。英国は今年 1 月末をもって EU を離脱したものの、自由貿易協定 (FTA) を筆頭として「将来の関係」が定まっていない中で 2020 年中は現行の経済関係を継続する移行期間として激変緩和措置が講じられている。これによって英国と EU の間にはまだ関税・非関税障壁が発生せずに済んでいる。即ち、「名目的には EU ではないが、実質的には EU」という名実の齟齬が生じている。この点、コロナショック以前から存在した争点は「2020 年末で終了する移行期間を延長するかどうか」である。延長は 2020 年 6 月末までに双方合意の上で決断することになっており、1 回限りで最長 2 年まで可能という取り決めになっている。

仮に、延長合意せずに 2020 年末までに「将来の関係」について合意形成できない場合、2021 年以降は WTO ルールに基づく単なる隣国関係になり下がることになり、関税も復活する。回避されたはずの「ノーディール離脱」と同じ状態が発生することになり、コロナショックで深手を負っている実体経済に追い打ちとなる。なお、2020 年末で移行期間が終了するとはいえ、各国議会の批准に要する時間を差し引けば 12 月 31 日ぎりぎりまで交渉を続けて合意というわけにはいかない。どんなに遅くとも 11 月末には合意が必要というのが実情である。すなわち本稿執筆時点で交渉期間は 8 か月を切っている。これまで EU が取りまとめてきた FTA は合意・発効に至るまで 5 年前後の年月がかかってきたことを思えば、これが如何に無理筋な状況か想像に難くないだろう。だからこそ EU 側の交渉を仕切る欧州委員会も、ジョンソン政権の「移行期間の延長はしない」という方針に懸念を示してきた。ここまでがコロナショックや首相の感染発覚以前からあった心配である。

## ～そもそも協議が出来ない～

結論から言えば、もう移行期間の延長は不可避の情勢と見受けられる。まず、もはや物理的に交渉が進めづらくなっている。周知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて大人数が集まる対面での会議が制限されている。外出制限や移動手段の規制もかかっているのも、そもそも大人数でなくとも普通に集うことすら困難な状況と言える。もちろん、ビデオや電話を通じた会議によって交渉はある程度は進もうが、事は英国と EU の「将来の関係」を詰める重要な協議である。高官だけが意見集約をすれば済むという話ではないだろう。各種業界団体との調整、経済的な影響ならびに法的な問題の検証は必要であろうし、実のところ通商面以外でも安全保障面に与える課題も争点となってくる。こうした広範な論点と共にステークホルダーも非常に多いことは想像に難くない。例えば過去の本欄<sup>1</sup>でも取り上げた漁業権問題のようなセンシティブな問題が高官のビデオ会議だけでまとまるのだろうか。直感的には困難に思える。

既に 3 月 18 日に予定されていた第二回会合(開催地ロンドン)は感染拡大を理由に中止(延期)された。しかも、翌 19 日には EU 側のミシェル・バルニエ首席交渉官が新型コロナウイルスについての自身の検査結果が「陽性」であったことを明らかにしている。かかる状況下、欧州委員会は今後

<sup>1</sup> 本欄 2020 年 2 月 3 日号『ブレグジット Q&A～アイルランド問題から漁業権問題へ～』をご参照下さい。

の協議はテレビ会議形式を含めて代替手法による協議継続を模索する方針を示しているが、そもそも「全く時間が足りない」と言われていたところにこうした事態が押し掛かっているのである。どう考えても年内合意を詰めるのは難しい状況と見受けられ、また後述するように、この交渉に政治資源を投下する状況なのかという根本的な疑義も抱かれる。今後、月 1～2 回程度の協議が対面協議以外の方法で開催されるはずだが、これと並行して行われる政治家以外のステークホルダーとの協議が首尾よく進むのか定かではない。8か月未満という残された時間と感染拡大に歯止めがかからない現状があまりにも噛み合っていないように見える。

### ～世論の本音は「今は一旦忘れてくれ」ではないか～

また、上でも言及したように、根本的な問題として今、「将来の関係」交渉に政治資源を割くべきかという疑問はある。現状、英国は「感染拡大を理由として移行期間の延長を決断することはない」というのが公式の立場だ。だが、既に英国の経済界や市民においては延長を求める声が高まっていることが報じられている。「将来の関係」交渉に関しては、もはや「移行期間を延長してくれ」というよりも「今は一旦忘れてくれ」という方が英国社会の本音に近いと推測する。既に移行期間が予定通り終了することを支持する世論は少数派になっているとの報道も目立ち始めている。コロナショックが実体経済にもたらすダメージが深くなり、可視化されるほどこうした世論は一段と高まるだろう。相次ぐ閣僚の感染は世論だけではなく与野党、英議会の空気を変えるだろう。

現状では世界中が新型コロナウイルス対策に政治資源を集中投下している。確かに強硬な EU 離脱路線がジョンソン政権の強力な支持基盤となってきたのは間違いない。しかし、もはや状況は変わっており、強硬路線は逆に支持を損なう雰囲気もある。世論に押される格好で延長を決断するという展開が最もありそうな展開ではないか。人智を超えた混乱によって来月の経済状況すら分からない中で、政治家の手で止めることができる年末の混乱を放置するのは愚行と言わざるを得ない。幸いジョンソン政権はメイ前政権と違って議会の過半数を押さえているので方針変更は円滑に進む。この状況ならば議会の意見集約も容易ではないかと想像する。

### ～EUも多少歩み寄るか～

延長決断と共に生じる難問の 1 つが英国が EU の規制に従い、EU 予算へ拠出しなければならない期間も一緒に延長されるという事実である。これは英保守党内の強硬離脱派からすれば屈辱の展開となる。文字通り、「Brino (Brexit in name only: 名ばかり離脱)」と揶揄される状況の甘受にはかたならない。しかし、一連の経緯に鑑みれば、延長決断は不可抗力という英国の主張もあるだろう。そもそも EU 側のバルニエ交渉官が感染し、英国では首相が感染しているのだから、予定通りに進められないのは当たり前である。報道によれば「公衆衛生上の問題」を通知して、協議を見送ったのは EU 側だという事実もある。コロナ対策で物入りな状況なども斟酌すれば、欧州委員会は EU 予算への拠出などである程度、手心を加えるようなことはあり得るかもしれない。ある程度の歩み寄りがあれば、英国としても延長拒否の公式方針を覆しやすくなるという面もある。

### ～ポストコロナで離脱派は強化されるのか？～

もちろん、いつまでも「名目的には EU ではないが、実質的には EU」という不健全な状況を続け

るのは双方にとって良いことではない。現状に鑑みれば、金融政策の条件付けで既に ECB が示唆したように「新型コロナウイルスの感染拡大が収まるまで」といった時間軸で縛るのが無難だろうか。ちなみに、コロナショックに伴う社会不安の高まりを契機として残留派の声が大きくなるのではという声もあり、そうした照会も頂くことがある。この点、筆者は疑問である。名目上とはいえ、離脱は公式に完了しており、その意味で残留というフレーズはもう使いようがない。但し、移行期間の無期限延長などに伴って実質的にはEUという状況が済し崩し的に継続するということは十分あり得るだろう。

また、ポストコロナの世界ではむしろ EU のようなヒト・モノ・カネが自由に行き来するというコンセプトが退潮になるという声も多く、現状ではそちらの方が説得力を持っているように感じる。とすれば、むしろ離脱派が自らの主張の正当性を強調するような世の中になるという可能性もある。

市場営業部  
チーフマーケット・エコノミスト  
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です  
<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

| 発行年月日       | 過去6か月のタイトル                                        |
|-------------|---------------------------------------------------|
| 2020年4月7日   | 「金利差なき世界」のあるべき視座～big picture～                     |
| 2020年4月6日   | 「悲観の極み」の中で「光」をどう見出すべきか                            |
| 2020年4月3日   | 週末版(「令和元年度 企業行動」に関するアンケート調査)を受けて～かすかに暗雲漂う円相場～)    |
| 2020年4月2日   | 今でも「危機対応のフロントランナー」の日銀                             |
| 2020年4月1日   | 過去最大のスタートダッシュを切ったECB                              |
| 2020年3月30日  | ドル高の裏にある新興国通貨安～半分はメキシコ由来～                         |
| 2020年3月27日  | 週末版(EUが直面する「第三の危機」～債務、難民そして疫病～)                   |
| 2020年3月26日  | EUに楔を打ち込む中国～マスク外交と侮れず～                            |
| 2020年3月25日  | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年2月分)                       |
|             | リスクシナリオも練り直し～日米金利差逆転というリスク～                       |
| 2020年3月24日  | 「ドル化する世界」と新興国通貨の選別                                |
| 2020年3月23日  | 「08年型のドル高」と円の「2大ステータス」                            |
| 2020年3月19日  | 週末版(踏み込んだECB、パンデミック緊急資産購入プログラム～「抜かずの宝刀」も抜かれるのか?～) |
| 2020年3月18日  | FOMCレビュー～「不要不急で自滅」は予定通り?～                         |
| 2020年3月17日  | ECB政策理事会レビュー～胆力と失望の狭間～                            |
| 2020年3月13日  | 週末版                                               |
| 2020年3月11日  | ECB政策理事会プレビュー～実質的なデビュー戦～                          |
| 2020年3月10日  | 日銀の「次の一手」を考える～GPIFとの共同戦線は?～                       |
| 2020年3月9日   | ドル安相場の当然の帰結～疫病は契機に過ぎず～                            |
| 2020年3月6日   | 週末版                                               |
| 2020年3月5日   | 欧州難民危機再び?～「見えない脅威」と「見える脅威」～                       |
| 2020年3月4日   | 不要不急の利下げで自滅したFRB                                  |
| 2020年3月3日   | 各国政府・中銀の政策協調姿勢を受けて                                |
| 2020年3月2日   | 最強通貨に返り咲いた円～年初来変化率がプラスに～                          |
| 2020年2月28日  | 週末版(メインシナリオに関するリスク点検～疫病リスク、米利下げ、円高～)              |
| 2020年2月27日  | 健在だった「安全資産としての円買い」と加速する悲観                         |
| 2020年2月21日  | 週末版(忌避されるユーロ～通貨安政策として先鋭化するマイナス金利政策～)              |
| 2020年2月20日  | 円急落は「日本売り」の結果なのか?                                 |
|             | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年1月分)                       |
| 2020年2月19日  | 危機モードが続く為替市場と無国籍通貨「金」の上昇                          |
| 2020年2月18日  | ユーロ圏経済の現状～中国とユーロ圏が風邪を引くと・・・～                      |
| 2020年2月14日  | 週末版                                               |
| 2020年2月13日  | それほど信頼できない「3月円高説」の実情                              |
| 2020年2月12日  | 流動化し始めたドイツ政局～メルケル退陣まで1年半余り～                       |
| 2020年2月10日  | 良好な雇用統計が浮き彫りにした市場の「甘え」                            |
| 2020年2月7日   | 週末版(上がりそうにない原油価格～3つの理由と共にドル/円相場への含意を考える～)         |
| 2020年2月6日   | 改善が続く企業マインドをどう読むべきか                               |
| 2020年2月4日   | 債券相場の現状と展望～遠すぎる物価「2%」～                            |
| 2020年2月3日   | ブレグジットQ&A～アイルランド問題から漁業権問題へ～                       |
| 2020年1月31日  | 週末版                                               |
| 2020年1月30日  | FOMCを終えて～新型肺炎リスクと減速軌道の米国～                         |
| 2020年1月29日  | メインシナリオに関するリスク点検                                  |
| 2020年1月28日  | デジタル通貨を巡る4大勢力～群雄割拠を読み解く～                          |
| 2020年1月27日  | 疫病リスクと金融政策への影響などについて                              |
| 2020年1月24日  | 週末版(ECB政策理事会を終えて～やや先走り感のあるラガルド総裁～)                |
| 2020年1月22日  | 日銀金融政策決定会合～「政熱経済」という運～                            |
| 2020年1月21日  | ECB政策理事会プレビュー～底打ち機運に乗り静観～                         |
| 2020年1月20日  | 米大統領選挙と為替～潜む一抹の不安～                                |
|             | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年12月分)                      |
| 2020年1月17日  | 週末版                                               |
| 2020年1月15日  | 「1998～99年」との違いはどこにあるのか～その②～                       |
| 2020年1月14日  | 中国の為替操作国認定解除を受けて～ドル売り介入の催促～                       |
| 2020年1月10日  | 週末版(「調達通貨は円よりユーロ」の答え合わせ～中東リスクを前に～)                |
| 2020年1月9日   | 予防的利下げの成否～「98年型利下げ」と「99年型利上げ」～                    |
| 2020年1月8日   | 軍事衝突と原油高への考え方～円高は不幸中の幸いか?～                        |
| 2020年1月6日   | 2020年、レンジ脱却に必要なもの～その②～                            |
| 2019年12月25日 | 2020年、レンジ脱却に必要なもの                                 |
| 2019年12月24日 | 2020年の想定外はどこにあるのか?～6つの論点～                         |
| 2019年12月23日 | スウェーデン、マイナス金利解除の読み方～2020年への示唆～                    |
| 2019年12月20日 | 週末版                                               |
| 2019年12月19日 | 米大統領選挙の左派リスクは2020年の波乱要因か?                         |
|             | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年11月分)                      |
| 2019年12月18日 | やはり上げを失った債券相場～政治も金融も債券の足枷～                        |
| 2019年12月17日 | 日銀金融政策決定会合プレビュー                                   |
| 2019年12月16日 | 英総選挙を終えて～「次の山」は2020年6月末に～                         |
| 2019年12月13日 | 週末版(ECB政策理事会を終えて～フクロウ型総裁の「人となり」～)                 |
| 2019年12月12日 | FOMCを終えて～「タカ派の利下げ」から「ハト派の現状維持」～                   |
| 2019年12月11日 | 円の基礎的需給環境～基礎収支に映る変化～                              |
| 2019年12月10日 | 道標を失った為替市場～マイナス金利解除がキーに?～                         |
| 2019年12月9日  | 英国総選挙の論点整理～事実上、「2度目の国民投票」～                        |
| 2019年12月6日  | 週末版(2019年の為替市場を概観する～円は結局強かった～)                    |
| 2019年12月5日  | ECB政策理事会プレビュー～デビュー戦、3つの見どころ～                      |
| 2019年12月3日  | ドイツ政局の流動化について～メルケル退任まであと2年～                       |
| 2019年12月2日  | 金融政策に環境配慮は必要か?～制御すべきは気候ではなく物価～                    |
| 2019年11月29日 | 週末版                                               |
| 2019年11月26日 | 円安リスクの点検～「ツケ」が怖い2020年～                            |
| 2019年11月25日 | 名目実効為替相場(NEER)で読む2019年のドル相場                       |
| 2019年11月22日 | 週末版(ドラギ元総裁、最後のECB政策理事会議事要旨～「結束(unity)」と財政政策～)     |
| 2019年11月20日 | 「ドル化した世界」で進む「金融政策の一本化」                            |
|             | 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年10月分)                      |
| 2019年11月19日 | ドイツは底打ちしたのか?～リセッション回避も残る不安～                       |
| 2019年11月18日 | 「株価の虜」と「予防的緩和」について考える                             |
| 2019年11月15日 | 週末版(ラガルド体制の「overhaul(刷新)」ミッションの行方～総裁会見と投票方式について～) |
| 2019年11月14日 | 欧州の「弱さ」源泉～輸出拠点が裏目にたドイツ～                           |
| 2019年11月13日 | 円高予想の誤算と「ドル化した世界」という悩み                            |
| 2019年11月12日 | 動かない相場の背景にある「円の不人気」                               |
| 2019年11月11日 | 「公的デジタル通貨 vs. リブラ」の様相に                            |
| 2019年11月8日  | 週末版                                               |
| 2019年11月1日  | 週末版                                               |
| 2019年10月30日 | ラガルド新ECB総裁を巡る3つの論点                                |
| 2019年10月29日 | 円安リスクの点検～欧州・中国の復調はあるか?～                           |